大糸線利用促進輸送強化期成同盟会
第９回振興部会　会議録（要旨）

日　　時	令和７年７月１７日（木）　午前１０時から（終了：午前１１時３０分頃）
場　　所	大町市役所 西庁舎２階 西会議室（オンライン併用）
出 席 者	部会員　１７名／２８名、　ＪＲ西日本金沢支社　３名（オブザーバー）、　事務局
会議内容 〔資料〕	▶ 次第／委員名簿 ▶ 協議事項 （１）大糸線の利用促進・利便性向上策について ・令和６年度 取組事業の振り返り　〔資料１〕 ・令和７年度 取組事業の年間スケジュール／目標値について　〔資料２〕 ▶ 報告事項 （１）令和７年度 大糸線プロモーション事業について　〔資料３〕 （２）令和７年度 大糸線増便バス運行状況について

■部会長あいさつ（糸魚川市 内山部会長）

昨年度から本格的な利用促進を実施し 2 年目に入る。報道ではインバウンドも６月は過去最高の数値となっている。万博も開催されている中、この地域にいかにお越しいただくか、或いは大糸線にご乗車いただくかという観点で利用促進の取組みを進めてまいりたい。

昨年度の取組みについては既に総会等において速報値という形で報告させていただいているが、本日は昨年度の振り返りと７年度の目標値について議論させていただき、７年度の取組みをどのように進めていくか等について話し合いができればと考えている。

■協議事項（進行：内山部会長）

（１）大糸線の利用促進・利便性向上策について〔説明：事務局（糸魚川市）〕

〇令和６年度 取組事業の振り返り　資料１

〇令和７年度 取組事業の年間スケジュール／目標値について　資料２

～資料説明～

部会長：補足をさせていただく。６年度実績について、速報値の際には目標値に若干足りていなかったが、最終的には目標が達成できた。増便バスは目標を達成できず報道化されてしまったが、取組全体では皆様のご協力もあり達成ができたと考えている。

それらを踏まえ、７年度の活動目標になるが、大糸線増便バスについては運行日数と便数が昨年度より減っていることから、昨年度の平日・休日の平均乗車数と日数を掛け合わせたうえで、実績に基づいた中で取れる最大値を設定し２万人とした。今年度は既に４～６月の結果が出ており、詳細は後ほど説明させていただくが、運行日については５月の連休を期待し設定したものの、ファミリー層は車での移動が大半であり、増便バスの利用は低調であった。これは、白馬エリアの特徴なのかもしれないが、人が動く時期であり、期待したより低調だった。また、昨年度好評であった駅メモについては１万人の実績があったものの、今年度は実施できないという部分で目標値の数字を減らしている。しかしながら沿線全体で取り組むことが本会の主題でもあるため、引き続き皆様のご協力をいただき取組みたい。

《質疑・意見等》

なし

■報告協議

（１）令和７年度 大糸線プロモーション事業について〔説明：事務局（大町市）〕　資料３

～資料説明～

《質疑・意見等》

部会長：特設サイトのリニューアルは８月までにインバウンド対応含め対応ができそうか。

事務局：その予定で進めている。

部会長：グリーンシーズンに向けて、早めの準備をいただきたい。謎解きイベントについては沿線の自治体の皆様にご協力をいただき昨年もＰＲを行ったが、今年度は３つのコースが組まれており、小学校の夏休み企画としてご利用いただけるよう、ＰＲにもご協力をいただきたい。

旅行商品の造成については昨年実績がゼロであったが、売るための工夫はあるか。

長野県観光部：昨年はタクシーの旅行商品がメインであったが、今回は旅行会社に沿線の住民が参加しやすいテーマで商品の造成と募集をしていく仕組みとしている。一方、旅行会社の募集だけでは、定員に達しない可能性もあるため、沿線の皆様にも周知していただき、できれば沿線の皆様ご自身も参加いただき、大糸線の魅力を再発見いただくプロモーションとしていきたい。

安曇野市：南豊科駅を除いた安曇野市管内の駅が開業 110 周年を迎えるため、ＪＲ東よりイベントの協力要請があり、７月 26 日に記念イベントを開催する。市としてはｅスポーツ体験や高校生に様々なアトラクションを実施いただく予定であり、リゾートビューをご利用の皆様にも高校生が監修した食べ物を配布することも考えている。また、同日にあづみ野祭りも開催することから、午前中に本イベントに参加された方々がお祭りにも流れていただけるような仕組みを考えている。

大町市観光文化課：旅行商品について、８月中旬から募集を開始する割に内容が固まっていないが、８月中旬から募集を行うのか。かなりタイトでは。また、実際に催行するのはいつ頃を想定しているのか。

長野県観光部：今のところ調整中の段階ではあるが、周知期間は今の状況だと短い気はしている。秋のシーズンの催行を考えており、実際はもう少し後の募集になる可能性もある。準備ができ次第余裕を持って募集を行ってまいりたい。

大町市観光文化課：沿線市町村にも募集協力という話もあったが、情報を早めに共有していただく中で、大町市であれば情報交通課だけではなく、観光文化課や観光協会も含め広く周知することが必要と思う。情報の開示をできるだけ早くお願いしたい。

松本市：謎解きイベントについて、キット配布数は参加目標の 3,000 部をお考えか。

事務局：キットは 6,000 部を作成予定。

松本市：作成部数は昨年と同等程度か。

事務局：昨年は 8,000 部作成をしたが、実際に配布できたのは 4,000 部程度。その内、実際の参加者数は約 1,000 人であり、今年度は作成部数を減らしている。

部会長：再度、沿線が一体となりＰＲを含めて協力をし、今年度は目標達成できればと考えている。

安曇野市商工会：白馬村は現在多くの観光客が来ているが、白馬に訪れる方がどこから来てどこに向かうのか。その際の交通手段として大糸線を利用いただくような戦略が取れないかと感じているが、何かご知見があればご教示いただきたい。

白馬村：冬はインバウンドの利用が多いが、グリーン時期については冬季ほどいない。一方、ここ１、２年は、４月以降に東南アジア系からの需要がかなりある状況。ただし冬に比べれば多くはないため、白馬村としても平準化は課題であると認識している。

行動パターンについては、夏は立山から大町を回り白馬へ立ち寄るケースが多い。その後、松本城を見て京都や東京へ向かうという流れかと思う。正確な動線データがないため見えない部分もある。

部会長：前評判が悪かった万博も調子が良いと聞いている。そういった皆様がどのような動きをしているの

かが日本全体として見えていないが、北陸応援割の関係でインバウンドの利用が伸びているというデータは拝見した。金沢までお越しになった方々を白馬まで引き込むような取組みができればと考える。

そういった中、８月にはスノーリゾート関連で大阪駅でのＰＲイベントの予定がある。大糸線の取組みも併せてＰＲさせていただきたい考え。また、９月にも 22 日、23 日の２日間大阪駅のスペースをお借りして、沿線一体となりＰＲを実施しインバウンドの誘客に取組みたい。内容については早急に詰めさせていただきたいが、各者ご協力をいただきたい。

（２）令和７年度 大糸線増便バス運行状況について〔説明：ＪＲ西金沢支社〕

〇増便バス４～６月の実績報告及び令和７年度の取組みについて

平素は当社事業へのお力添えに感謝申し上げる。また、このような取組みを地域の皆様と目線を合わせながら、取り組ませていただいていることにありがたく、また頼もしく感じているところである。一方でこれらの取組みは、持続可能な路線としての方策を見出すための取組みの過程であると認識しており、皆様との共通認識という形で進めさせていただければ幸い。

当社もプロモーションは相当な覚悟を持って実施しており、西 Navi にて特集を組ませていただいている。７月号の表紙は高浪の池の美しい景色を取り上げさせていただき、中をめくると大糸線沿線の各種スポットを「気持ちのよい新潟・長野」というストーリーでテーマを定め特集をしている。ご当地のサウナやグリーンリゾートとして糸魚川のレンタサイクルについてもご紹介をさせていただいた。また、先程部会長からお話があったが、９月に大阪駅のアトリウム広場で出向宣伝を実施予定であり、当社としても精一杯ご協力をさせていただく。

～資料説明～

〔補足〕

・ご利用の状況という点で総論的に申し上げると、昨年度と比較した同月比では鉄道と増便バスを合わせると、推計値ではあるが約 1.4 倍となっており、ご利用が着実に伸びている。

・一方、この数字は大量輸送という観点で鉄道の特性を発揮できている状況とは言い難い状況が改めて浮き彫りになったものと考える。何度も申し上げており恐縮ではあるが、地域の未来に資する持続可能な路線としての方策を一定期間内に取りまとめることは皆様との共通の狙いであると考えており、具体的な交通体系に関する議論を早急に進める必要があるといことは５月の活性化協議会総会でも「待ったなし」という状況はお伝えさせていただいているとおり。この手の議論を活性化策が尽きた状態で始めるというよりも様々な取組みと並行しながら互いに知恵を持ち寄り、互いができることをテーブルに乗せながら地域の価値向上、活性化につながる策をあらゆる選択肢の中から答えを見つけていければというのが我々の願いである。それが持続可能な路線としての方策に繋がると考えており、まずは議論や検討の進め方、考え方やそれらのスケジュールについても速やかに整理をお願いしたいと考えている。皆様のお考えを伺いたい。

《質疑・意見等》

部会長：実際の数値として、GWは期待したほど伸びなかった。昨年も６、７月の利用は少なかったが、８月になって利用が増えた。本格的なグリーンシーズンを迎える形となり、この３連休から運行本数も増えるため、沿線自治体もＰＲをしていただきたい。

現段階、きっぷの販売等についてお客様からのご意見等は挙げられたか。

ＪＲ西：特に問題はないという認識。

部会長：観光協会からも特段聞いていない。検索の面でご意見はいただいているか。

ＪＲ西：時刻表掲載をしており google などの検索エンジンにかかるよう情報提供をしており、問題はない。

大町市：増便バスの昨年度の振り返りについて、前回会議の６年度２月末までの実績が最新と認識している

が、３月までの実績をお示しいただけるか。

ＪＲ西：昨年度のまとめ資料については、５月に活性化協議会の中でお示ししている。ＨＰには既にアップされている認識でよいか。

部会長：確認し、会議資料とあわせアップさせていただく。

ＪＲ西：承知した。昨年度取りまとめ資料についても振興部会ＨＰにアップいただけると幸い。

大町市：これから決算議会ということもあり、増便バスの注目度も高いことから。どの程度利用が増えたかなど、今後問われた際の回答についても意思疎通を図りたい。

部会長：沿線自治体の９月の決算報告に併せ、簡単なＱＡを私どもで作りたい。共有させていただく。

安曇野市観光協会：我々の事務所は穂高駅前にあり、現在は欧米の登山客が多く見受けられる。あずさの停車もあまりないことから、朝早く各駅停車の列車でお越しになられている。駅前から登山口まで定期バスがあるが、まだ現金 1,500 円という対応しかしておらず、欧米の方からの収受に時間を要している。松本駅でＪＲ大糸線に乗り替える際に、インバウンドの方々はどのようなきっぷの購入を行っているのかご教示いただきたい。特に、欧米系のツアーでは縦走されることが多く、燕岳から白馬まで、そして糸魚川の旭岳まで行かれる商品もあるようで、非常に期待をしているところ。その方々に大糸線を利用いただければと考えている。

ＪＲ西：ＪＲ東日本エリアでの状況については分かりかねる部分もあるが、大糸線増便バスにおいてはジャパンレールパスのようなフリーパスのご利用も多い。また、普通にきっぷを購入される方も多く見受けられる。

部会長：ジャパンレールパスの売り上げの推移はいかがか。

ＪＲ西：数字を持ち合わせていないが、ご利用状況は増加傾向である。

部会長：その他、委員からご意見等ありますでしょうか。

ＪＲ西：先程、具体的な交通に関する議論について、この先の議論や検討の進め方、スケジュールなどについて整理をお願いしたいが、本日、何かしらのお考えを持ち帰らせていただくことは可能か。

部会長：その議論は両県とＪＲでの３者協議の中でお話いただいている内容と理解しており、各沿線自治体への説明はいただいているものの、今後どのように進めていくのかはこの会議が終了後に議論するものとお聞きしている。一定のスケジュール対するお考えはお持ちになっていると思うが、その場での話になる。両県もその認識で良いか。

新潟県：現在、一生懸命利用促進に取り組んでいるところではあるが、一方で早い段階から様々な持続可能な方策に関する議論を深めていくことは進めていく必要があると考えており、秋頃にはどういった形で整理を進めていくかということを公表できるよう考えていきたい。

ＪＲ西：秋頃ということで承った。懸念点としては、本日もそうであるがマスコミが３社しか来ていない状況であり、我々の取組みを地域の皆様に認めていただけていないのではないかと考えている。この先、地域の皆様の総力を活かしながら様々なお考えやご協力を仰いでいかなければならない時が来れば、一定のスピード感は必要と感じている。引き続き、我々も覚悟を持って精一杯取組みたい。皆様のお力添えも賜りたい。

長野県：鉄道の潜在的な需要を掘り起こすということで、確かに数字的には伸びており、それぞれが取り組んだ成果だと思う。一方、ＪＲよりお話があったとおり、鉄道として大量輸送の特性を発揮できていない状況は大変厳しいものと認識している。

今年１年、効果的に利用促進に取り組んでいく上で大切だと思うことが２つあり、誰が利用促進を進めていくか主体の問題が一つ。もう一つは、どこへ向かって皆が歩んでいくかという目標設定。目標設定については、協議事項の中でもお話があったとおり、取組みごとで目標値を持って取り組むことは大事であるが、沿線住民からすると「大糸線は何か取り組んでいるようだけども、どこへ向かってどのレベルまで引き上げるのか」分かりにくいのでは。鉄道特性を発揮できるようにするため輸送密度を 1,000 人

または2,000人を目指すとなると、今から10倍以上の利用がないと到底達成することは難しい。そうであれば果たして目指す目標値としてやっていけるのかという話がある。

主体的な面で申し上げると、協議会や沿線自治体等のご協力を得ながら取組みを進めているが、おそらく２年間の利用促進を取り組む中では、住民や地域といった民間の方々も巻き込み、主体的になっていただく必要がある。住民の方々にも利用を増やす取組みも実施いただく必要があり、例えば宿泊施設や観光施設であれば大糸線を利用された方々に対し何らかのメリットを提供するといったことや、ＳＮＳ等を活用し大糸線のＰＲをしていくなど、自分ごととして取組んでいただく必要があると思う。民間の方を巻き込む上では統一的な目標設定は必要。目標を決めてしっかりと取り組んでいこうということを阿部知事からも言われている。

また、関心が薄れているのではないかという所について、今回マスコミが３社しか来ていないことが表しているかは別として、やはりＰＲ不足であることは我々も感じている。県では31日の知事会見において、夏休み前ということもありしっかりＰＲしたいと考えているが、それだけでなく沿線自治体からも住民に対しＰＲして欲しい旨を伝えてきて欲しいと言われており、そういった意味では様々な方が高い目標に向けしっかりとやっていくという気概を持って盛り上げていかないと、先程の鉄道や増便バスの利用状況を踏まえると非常に厳しいということもある。そこは、皆でしっかりと取り組んでいきたい。

方策の議論については、議論を深めていくことは重要と考えている。長野県は地域公共交通計画を昨年策定しており、自動車に頼らなくても大きな不便なく暮らしていけることを目指して取り組んでいる。その中で皆様がどのような形で暮らしていくのかという中で、公共交通のあり方を考えていくことは非常に重要と感じているため、県としては早く議論をしていきたい思いはある。

部会長：阿部知事からは地元の熱意については昨年度も言われており、そういった中で振興部会は沿線一体となって利用促進に取り組むということでスタートしている。再度スタート時に戻り、気持ちを新たにして沿線自治体や関係団体の皆様のご協力をいただきたい。

本日は資料のとおり目標設定を行っているが、これは各団体から出てきた目標を合わせたものであり、振興部会で利用促進に取り組んでいく中での目標となっており、目標をクリアする形で進めていければと考えている。当然、鉄道特性をクリアするには相当ハードルが高く、個別の利用促進だけでなく、全体の枠組みや仕掛けも考えないといけないこともあるかもしれない。そういったところは今後の議論の中で議論すべき内容と考えている。とにかく利用促進に沿線一体となって取り組んでまいりたい。

ＪＲ西：・長野県からも力強いお言葉をいただき感謝。本当に、地域の皆様にこの課題を見つめていただきながら前に進めることができればと考える。そういった意味では持続可能な路線としての方策を一定期間内に取りまとめるということも振興部会の大事な目的であり、改めてお願いしたい。

現在、増便バスを実施しながら、或いは鉄道にも乗り込みながら、ご利用のニーズや動向の調査をまとめている。この他にも何かしらのデータが必要であれば、急ぎそのアクションが必要となるが、そのあたり皆様のお考えを伺いたい。住民もさることながら、この地域は観光のご利用が大半を占めている状況があり、宿泊施設の事業者にご意見を伺うアンケートも一つの知恵。そういったことも併せご検討いただきたい。我々が手を動かすことも可能と考えており、必要な情報収集は我々も精一杯汗をかく所存である。ぜひ皆様のご意見を伺えればと思う。

部会等：基本的には、本日そのようなご提案があったということは受け止めさせていただくが、振興部会の中では、今年度は利用促進の取組みがベースとなることから、その部分についてはあり方の議論の準備も含めて別議論ということで考えている。その中で必要になるのであれば委員の皆様に共有をさせていただき、どういった形で取り組むかも含めて議論があると考える。まだそこの整理がついていない中では、この場で議論は難しいと考えている。

ＪＲ西：承った。何かご意見等があればお伝えいただきたい。

部会長：増便バスの乗降場所が冬期は白馬駅から離れているため、駅側のオペレーションが難しいとご意見

をいただいている。この件についてはルートも含め、今後、事務局も入り調整をさせていただきたい。

松本市：当市は中央東線の同盟会にも加盟しており、特急あずさの利用促進など行っている。特急あずさについては南小谷行きが白馬止まりとなった問題もあるため、大糸線と中央東線の同盟会が連携して対応できればと思う。

■その他

事務局より：次回振興部会は、本日、説明をさせていただいた同盟会事業や各団体の取組状況などの中間報告を主な内容として、11 月頃を目途に予定したい。

部会長：増便バスの冬期運行の手続き上の関係や様々な物事が動いていますので、開催時期については状況によって事務局と相談し、改めてご案内をさせていただく。

■閉会（小谷村 太田副部会長）